

日本の名湯(終) 北海道の名湯(北海道) — 秀麗な山や湖の眺望と新鮮な源泉を満喫

2020年3月末現在、日本で宿泊施設を備えた「温泉地」数は2,971箇所。10年前は3,185箇所あったが、近年3,000箇所を割った。これは全国的に日帰り温泉施設だけの所は増えていても温泉地数にはカウントされないこと、地方のひなびた温泉地の衰退が影響している。とはいえ、温泉地数や源泉(湯元)総数、総湧出量など温泉資源の豊かさと利用率を示す指標を見るかぎり、依然世界トップクラスを保っている。

その日本で温泉地数が最も多い都道府県は北海道で、243箇所。総湧出量は別府温泉郷を抱える大分県に次いで全国2位。源泉総数は全国4位。どの温泉指標から見ても北海道だけで日本の温泉資源の1割弱を占め、10種類の泉質はすべてそろろう。



酸性-硫黄泉の川湯温泉の泉源地・硫黄山(以下断りない限り提供：石川)

日本列島の北に位置し、本州に次ぐ広さの北海道は、夏のさわやかな気候と日本では珍しい大陸的な風景、冬の雪景色とウインタースポーツ、火山活動が造った秀麗な山容と湖の景観の美しさで、国内外の観光客に人気が高い。その観光人気を支え、宿泊拠点となっているのが温泉地である。

北海道でとりわけ自然景観や温泉の質に恵まれた名湯は、ほとんどが国立公園・国定公園に指定された四つの地域(エリア)に集中している。一つは、道南部の大沼国定公園内と欧風の港町・函館市内エリアである。二番目は、札幌市と千歳空港に近い支笏洞爺国立公園とニセコ積丹小樽海岸国定公園に含まれたエリアである。三番目は、道中部に横たわる北海道最高峰の大雪山(標高2,291m)のある大雪山国立公園に含まれたエリアである。四番目は、道東部の阿寒摩周国立公園内の阿寒湖と屈斜路湖周辺エリアである。日本の名湯紹介の最後として、北海道の各エリアの代表的な名湯を案内したい。



道南部の大沼国定公園の駒ヶ岳と大沼

最初の道南部エリアには、大自然に囲まれた温泉が大半の北海道ではむしろ数少ない大型温泉ホテルが建ち並ぶ温泉街を持つ湯の川温泉がある。入湯税収入から見た入湯客数で全国 10 位(2018 年度)。二番目のエリアの札幌市郊外にあって入湯客数全国第三位の定山溪温泉に次ぐ、北海道を代表する観光温泉地である。

観光温泉地といっても湯の川には主に地元住民が利用する源泉かけ流し共同浴場が複数あるように、泉質は塩化物泉の湯量が豊富である。北海道では温泉地として歴史が古く、展望大浴場や露天風呂から津軽海峡を一望できる。また、温泉街にある函館市熱帯植物園には、生息の北限を越えて飼育されているニホンザルのために温泉プール(浴場)を備え、仲間や親子連れで顔を赤らめて温泉を満喫している微笑ましい光景が見られる。

湯の川温泉のある函館は、1859 年に横浜、長崎と並んで国際港として最も早く対外的に開港した歴史から、欧風の教会や建造物が多い街並みが観光人気を集める。さらに広域化した函館市内には他にも、夏場に海中に湧く温泉に入浴できる水無海浜温泉など個性的な温泉地が多い。

このエリアでは、爆裂火口を持つ駒ヶ岳(標高 1,131m)と山容を湖水に映す大沼の景観が美しい大沼国定公園内に温泉が点在し、遊覧観光や乗馬、スポーツを楽しめる滞在型リゾートとなっている。



函館山から見た函館市街／函館ハリストス正教会



海中温泉を楽しめる水無海浜温泉

二番目のエリアは、人口 200 万人近い札幌市民の奥座敷的な憩いの場で大観光温泉地の定山溪温泉を除けば、北海道ならではの美しい山と湖の景観を楽しめる温泉地が多い。とくにお奨めは、支笏洞爺国立公園内の支笏湖畔に湧く一軒宿の丸駒温泉である。

丸駒温泉では支笏湖の湖底から自然湧出する所を仕切り、天然露天風呂にしている。立って入る深さで、足元の湖底から湧出しており、53℃の高温泉が湖水とまざって程良い温度になっている。目線の先に湖水が広がり、対岸に風不死岳(標高 1,041m)や紋別岳が横たわる壮大な風景を入浴しながら堪能できる。



丸駒温泉の足元湧出天然露天風呂(左)／テラスの露天風呂から支笏湖と風不死岳を望む(右)

このエリアではもう二つの名湯を見逃せない。一つは、日本海に近いニセコ積丹小樽海岸国定公園のニセコ山系に10箇所ほど温泉が点在するニセコ温泉郷である。泉質は多様だが、青・黄白濁する硫黄泉が多く、ニセコ湯本温泉には自然湧出の大湯沼がある。

そして支笏洞爺国立公園内の登別温泉は、地学的にみて北海道最大の温泉の宝庫だ。活発な噴気活動で地獄景観を醸し出す地獄谷と大湯沼が泉源(湯元)となり、大分類の泉質でも6種類がそろそろ。大湯沼から流れ出た湯川では足湯も楽しめる。



ニセコ湯本温泉の大湯沼

三番目のエリアでは、北海道中央部に連なる2,000m級の山岳景観を望む温泉地が点在している。代表的な名湯は、北海道最高峰の旭岳(標高2,291m)の山腹に横たわる旭岳温泉、赤茶色を呈した露天風呂から火山の十勝岳(標高2,077m)と上富良野岳(標高1,920m)を見渡せる十勝岳温泉、トムラウシ(標高2,141m)の麓の登山口に自然湧出する噴気地帯を持つトムラウシ温泉、溪流脇に数々の天然露天風呂が点在する然別峡かんの温泉、大雪山山系では最大の観光温泉地・層雲峡温泉である。

標高 1,100m に位置する旭岳温泉は高原リゾートでもあり、ロープウェイに乗って旭岳直下に噴煙を上げる地獄谷を見学できる。標高 1,280m の十勝岳温泉は北海道最高所の温泉地で、露天風呂から四季折々の様相を見せる十勝岳連峰を仰ぎ見ながら、鉄分を含んで赤色を呈した自然湧出の源泉を堪能できる。



十勝岳温泉。右手の山が上富良野岳



旭岳の地獄谷(左)／トムラウシ温泉(右)



溪流脇に野天風呂。然別峡かんの温泉・鹿の湯

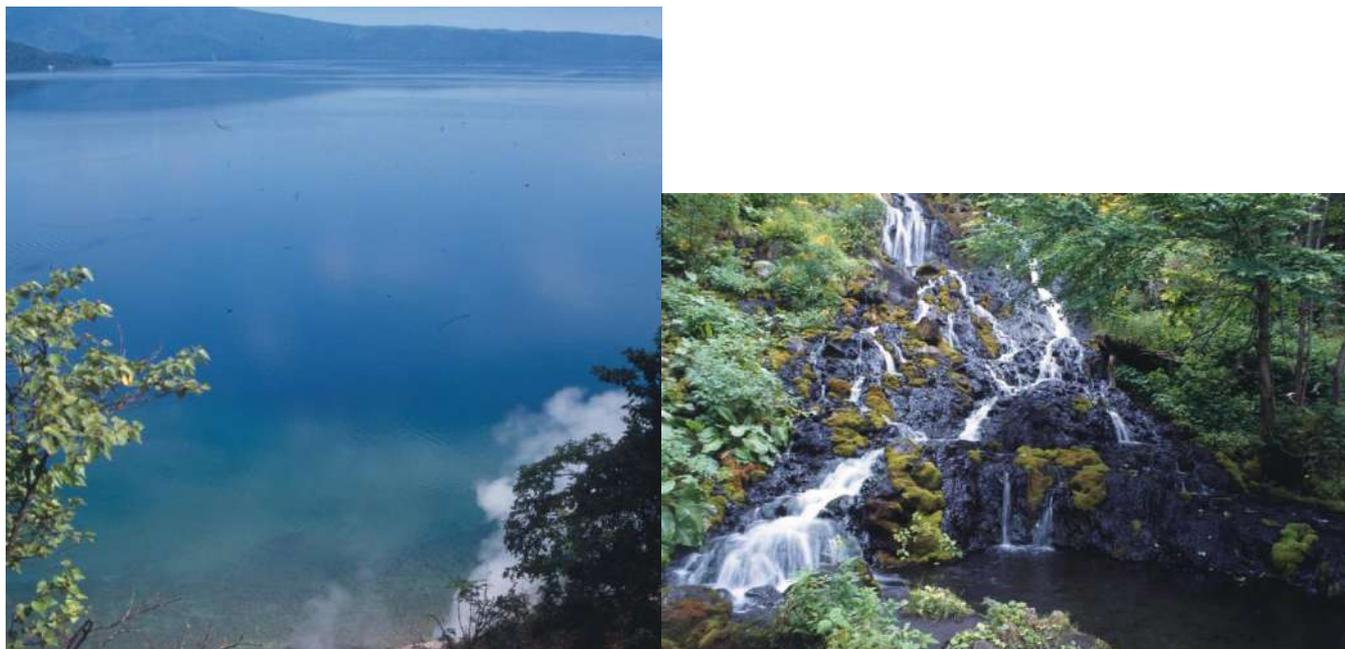
四番目のエリアでは、火山活動で誕生した日本最大のカルデラ湖の屈斜路湖、そして阿寒湖の周りに名湯が集まっている。

屈斜路湖は東から南に至る湖岸の各所で温泉が自然湧出し、砂湯地区では岸辺の砂地を掘れば自分用の野天風呂が出来上がる。湖畔には無料で開放された露天風呂もいくつかあり、アイヌ語由来の「コタンの湯」も湖面とは岩造りで仕切られた無料露天風呂で、冬には湖水から白鳥の群れが近づいてくる。湖から少し内陸に入った川湯温泉は、3~4km離れた硫黄山(冒頭の写真)を泉源とする強い酸性-硫黄泉が湯の川となって温泉街を流れている。

阿寒湖畔には観光温泉地の阿寒湖温泉があるが、阿寒湖を誕生させた火山の雌阿寒岳の麓には一軒宿の雌阿寒温泉という硫黄泉の淡緑色をたたえた名湯がある。近くにある神秘的な湖「オンネトー」から森の中へ行くと、温泉から二酸化マンガンを生成する「湯の滝」があり、特別天然記念物に指定されている。ただ、ヒグマの出没には気をつけたい。

北海道の温泉は、1868年の明治時代以降、本州から開拓民が入植してくるまで、先住民アイヌの人々が温泉資源を個人私有せず、共同で大切に利用してきた歴史がある。北海道の地名・温泉名もアイヌ語起源が大半だ。かつての日本人もそうだったようにアイヌ民族は、温泉を湯の神が守る聖域と見なし、湯の神に感謝して入浴していた。

しかし明治時代以降は資本力を投入した温泉開発が進み、温泉資源の個人所有も進んだ。それが今日の北海道の温泉指標に現れているが、大自然が豊かな北海道には今なお温泉ファンに喜ばれるワイルドな「野湯」と呼ばれる自然湧出の天然湯壺がたくさん見られる。ただ、野湯は高温泉によるやけど、有毒ガスなどリスクも高いので、まずはここに紹介した名湯を訪ねることから北海道の温泉の魅力を再発見してほしい。



屈斜路湖畔から熱泉が湧くオヤッコツ地獄(左)／オンネトーの湯の滝(右)

本文 石川理夫

【温泉地 DATA】

- ・所在地：北海道
- ・アクセス：空港では函館、千歳、旭川、帯広、女満別など。函館までは東北・函館新幹線利用。
- ・泉質：10種類のすべての泉質
- ・源泉数／湧出量／湧出形態：2,172本／毎分約19万6,902リットル／自然湧出・掘削自噴・動力揚湯
- ・照会先：各温泉地・自治体の観光協会・旅館組合まで